

2022年9月16日大和ボケ封じ霊場巡拝時観察した植物

作・岡田弘

タチスズメノヒエ（立雀の稗）イネ科スズメノヒエ属

南米原産の多年草、牧草としてきたものが野生化、道端や休耕田、などで多く見かける、今回も道路脇や空き地に多く見られた。この草の特徴は背が高く、70～150cmになる。スズメノヒエは30cmくらいです。

***雀の名前の由来**=スズとは鳴き声からと考えられる、現代ではスズメの鳴き声は「チュンチュン」で表現されるが、平安時代は「シウシウ」、江戸時代は「チーチー」「チュチュー」と表現されていたようだ、そのなき声を鈴の音と表現、「メ」は「群れ」という意味がります故に、鈴に似た声の群れ、の意味でズズメとなった。植物で動物名が付くのは人に役に立たない



ホウキギク（箒菊）キク科ホウキギク属 花期=8～10月

名前の由来=上部で細かく枝分かれした枝を箒に見立てた。

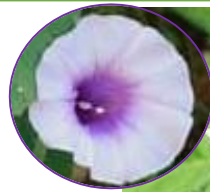
原産地、南アメリカ、ブラジル、日本では明治後期に大阪で発見された、茎は高さ約1mくらいまでなり良く分枝して先に直径約5mmほどの白色または薄紫色の舌状花（花弁1枚に雌蕊1個ついている）葉は基部から先まで同じ幅の線形で、基部では少し茎を抱く。よく似た仲間にヒロハホウキギクがある、基部で葉を抱かない、葉が広い、*花言葉=無い



マメアサガオ（豆朝顔）ヒルガオ科サツマイモ属

名前の由来=従来の朝顔に比べ豆の様に小さいという意味。北アメリカ原産1年草、1955年に東京で発見、今では関東以西に道端や空き地に普通に生えているツル性植物、全体ほぼ無毛、葉は先が尖った長卵形～心臓形、全縁又は3裂し長い葉柄があつて互生、葉柄から1～2本花茎を出し、直径約1.5mmほどの白色、淡紫色の花を咲かせる、花柄にはイボ状の突起が密生して陵がある。

***花期**=6～10月 ***花言葉**=見つけたら幸せ・強い絆



ヒレタゴボウ（鰭田牛蒡）アカバナ科チョウジタデ属

北アメリカ原産の1年草、1955年に愛媛県松山市で発見、1960年には四国や瀬戸内地方で水田雑草として知られるようになり、現在では、関東地域まで分布している ***名前の由来**=ヒレは4角の茎の陵が鰭に見立て、根がゴボウの様に長い所から。たかさは約1mになる茎は4陵（四角）良く分枝する水辺を好み休耕田に群生している、葉は広線形で全縁、葉柄が無い、互生、花は黄色の4弁花、*花言葉=温厚な性格・橋渡し ***花期**=9～10月 *別名・アメリカキンミズヒキ・在来種でミズキンバイがうるが絶滅危惧種でほとんど見かけない、花弁5枚が多い。



チョウジタデ（丁字蓼）アカバナ科チョウジタデ属>別名タゴボウ

名前の由来=花後の形が香辛料に使われるチョウジに似ていて葉の形など全体がタデに似ているところから。茎は良く分枝して陵があり紅紫色を帯びて高さ15～100cm 無毛か、まれに短毛がある、葉は互生で短い葉柄がある、披針形で全縁、花は葉腋に1個つき黄色、花弁は4～5枚変化が多い最高8枚も、直径約7mmほどで、花柄ほとんどない。花弁が罌より短い、*花期=8～10月 ***花言葉**=ヒレタゴボウと同じ。



その他多くの植物があつたが。すでに紹介しているので一部、下記に名前と写真を掲載、

①オオニシキソウ②コニシキソウ③アキノメヒシバ④メヒシバ⑤エノコログサ⑥アレチハナガサ⑦ジュズダマ⑧カナムグラ⑨メリケンカルガヤ⑩スズメノヒエ。等々

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩

